

【第五回】

諸橋轍次記念

漢字文化理解力検定

二〇二三年十月二日

※解答は楷書で記すこと。なお、字体や仮名遣いが一般的なものと大きく異なる場合には、減点の対象とすることがある。

【問題一】（44点）

次に掲げるのは、諸橋轍次が一九六三（昭和三十八）年に発表したエッセイ「動物か植物か」である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。（問題作成にあたって、一部、文字遣いや文章を改めたところがある。）

話は少し古いが終戦の翌年の春であったと思う。当時はだれしも同じことだが、よもやと思ったことが次々に実現して、東京までが大半廃墟はいきよと化しおわった。快々おうおうとして楽しまず、「㉔国破れて山河在り」などという詩句だけが頭にこびりついて、明けも暮れても味気なく、ただいたずらに時局の推移に心をいたましめていた。ある日のこと、庭を散歩してゆくりなくも足をやしお*1もみじの下にとどめてみると、それはたしか二月の末か三月の初めであったが、天地は冬枯れの①荒涼を極めているとのみ思いのほか、ふと見ると枝という枝には皆新しい木の芽がはぐくまれていた。それを見た瞬間、ハッと頭に浮かんだのは「天地物を生ずる*2の気象に観よ」という㉕宋儒の言葉であった。そしてその時を②ケイキとして私の心は明るくなった。㉖冬が過ぎれば春が来る。東洋の思想形式と西洋の思想形式とはどう違うか。前者は統合的だ、後者は③ブンセキ的だ。前者は断片的だ、後者は系統的だ。前者は精神文化に④長じ、後者は物質文明に長ずるなどとよく言われるが、私の近ごろ考えたことは、西洋の思想でも東洋の思想でも、よい点はよいし、悪い点は悪いが、少なくとも西洋の近代思想の悪い点と東洋の上代思想のよい点との違うところは、前者が動物の世界を見てイデオロギー*3を立てているのに対して、後者が植物の世界を見てイデオロギーを立てている点にあるということであった。

動物の世界を見ていれば、それは弱肉強食だ、㉗鯨は鯨を食い殺すし、鮫は鯖・鰯を食い殺す。同じ鯨の中でも適者生存の理法

を守ろうとすれば、そこに同胞④相食む修羅場をさえ現出する。これが動物界の現象を見て知るわれわれの現実だ。われわれ日本の国民は前年の失敗で戦争の⑤惨禍には懲り懲りしているはずだが、それにもかかわらず、日々の新聞、ラジオの報道には必ず「鬭争、鬭争」の⑥声^{こゑ}が聞こえてくる。いやなことだ。ダーウインの進化論が悪いわけではあるまいが、要するにこれは動物の世界を見てイデオロギーを立てている西洋の近代思想の悪い点を学んだ⑤エイキョウだ。

東洋では我が国でも中国でも同じことだが、植物の姿を見てイデオロギーを立てる傾向がある。「めずる」という言葉は人や物を愛することであり、「めぐむ」という言葉は同胞愛を表したものである。いずれも木の芽をはぐくみ育てる原義からできた言葉である。そのめずること、めぐむことが⑥コシヨウなく行われれば、それが「⑦芽でたい」ことにもなり、「めずらしい」ことにもなるのである。

◎孔子の教えの根本は仁道の実現にあるという。「仁」にはいろいろの説明があるが、要するにそれはめずる心であり、めぐむ心の拡大である。文字の構成からいえば「二人を仁と為す」といって、人と人との関係を結ぶ道だという説明もあるが、一面また「仁」は「植物の種」だともいう。アンズの種から作った⑧杏仁油の「仁」などがこれを示す。その植物の種をいたわって育てあげるのが「仁」だというのである。⑨老子は多くの点で孔子と教えの立て方を異にしているが、終極においては同一に帰着する。「我に三宝有り、持して之を保つ」といい、その「三宝」は「一に曰はく、慈」であるという。「慈」はいつくしむことである。

⑩文字の構成からいえば、「慈」は草木のしげることである。草木を⑪繁茂せしめるそのように人と物とに接して行く心がすなわち「慈」である。東洋の二大聖人といわれる孔子と老子はこのように植物を見て、教えの本としているのである。⑫釈迦のことは知らないが、その説く所の「慈悲」も恐らくはやはり同じ点から出発しているのではなからうか。

植物も動物も同じ自然界の現象だ。どちらを取ってイデオロギーを立てても⑬イギはなからうが、同じことなら食うか食われるかの修羅場を見せつけられるよりは、すすく伸びる春の木の芽にはほえみを浮かべたいものと思う。

ついでながら過日、本田正次さんの「杉並木と老杉」という随筆を読んだ。日光杉並木の杉の⑭ジュレイは三百十六年、屋久島の屋久杉には実測二千年以上の年輪があったという。動物の年長者は象といえども二百年は生きのびまい。動ける動物が夭死で、

動かぬ植物が長寿なのは何故だろう。植物を見ているとどうやら静者の楽しみも少しはわかるような気持ちがある。

(『諸橋轍次著作集第十卷』大修館書店、一九七七年による)

- *1 やしおもみじ もみじの一品種。
- *2 天地物を生ずるの気象に観よ 『近思録』のことば。あらゆるものを生み出す自然界のはたらきに注意せよ、という意味。
- *3 イデオロギーを立てている 考え方を組み立てている。
- *4 本田正次 ほんだまさじ (二八八七～一九八四)。植物学者。

問1 傍線部①～⑧について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで書きなさい。(各2点)

問2 波線部① 「国破れて山河在り」は、中国の有名な詩人の一句である。その詩人の名前を次の中から選び、記号で答えなさい。

(2点)

- ア 陶淵明
- イ 白楽天
- ウ 杜甫
- エ 李白

問3 波線部② 「宋儒」とは、宋王朝の時代の儒学者という意味である。この王朝の説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

- ア 科挙に合格した士大夫たちが、政治・文化の中心として活躍した。
- イ 経済活動が盛んになり、商業出版も盛んに行われるようになった。
- ウ 庶民の間で講談が流行し、後の時代の口語小説を生むものとなった。
- エ 襄公が敵に情けをかけたために戦いに敗れたのをきっかけに、衰退した。

問4 次に掲げるのは、二重傍線部㊦「冬が過ぎれば春が来る」とよく似た意味を表す四字熟語である。空欄に入る漢字一文字を書きなさい。(2点)

「一陽来□」

問5 二重傍線部㊧「長じ」と同じ意味で「長」が使われている熟語として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 成長 イ 特長 ウ 年長 エ 冗長

問6 二重傍線部㊨「鯨は鮫を食い殺すし、鮫は鯖・鰯を食い殺す」に出て来る「魚へん」の漢字の中には、一つだけ国字(漢字に倣って日本で作られた字)がある。その漢字の読み方をひらがなで書きなさい。(2点)

問7 二重傍線部㊩「惨禍」について、「惨」の部首「亻」の名称をひらがなで書きなさい。(2点)

問8 二重傍線部㊪「声」の旧字体は「聲」である。では、これと同じように、旧字体の一部分がそのまま独立する形で新字体として使われている漢字は、次のうちどれか。一つ選んで記号で答えなさい。(2点)

ア 円 イ 旧 ウ 医 エ 点

問9 二重傍線部㉞「芽でたい」とあるが、下に掲げるのは『大漢和辞典』の字訓索引の「めでたい」の項目である（漢字の下の漢数字は、巻数と頁数）。空欄に入る漢字としてふさわしいものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

- ア 令 イ 美 ウ 瑞 エ 歛

問10 波線部㉟「孔子の教え」とあるが、孔子の教えのキーワードとして「仁」以外に漢字を一字挙げるとすれば、どんな漢字になるか。次の中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

- ア 礼 イ 愛 ウ 法 エ 無

問11 二重傍線部㊿「杏仁」は、「あんじん」と読まれることもある。「杏」を「あん」と読む読み方は、次のうち、どの音読みに該当するか。一つ選んで記号で答えなさい。（2点）

- ア 呉音 イ 漢音 ウ 唐音 エ 慣用音

問12 波線部㊾「老子」に関係の深いことばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

ア 学問に王道なし。 イ 学はもってやむべからず。

ウ 十有五にして学を志す。 エ 学を絶てば憂いなし。

問13 二重傍線部㊿「文字の構成からいえば、「茲」は草木のしげることである」とあるが、常用漢字の中で構成要素に「茲」を含む、「慈」以外の漢字を一つ書きなさい。（2点）

禧	禱	嘉	景	□	吉	めでたい
八四七	八四六	二二〇	五八三	九七	二八〇五	

問14 波線部⑥「釈迦」が言ったと伝えられていることばとしてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

- ア 天上天下、唯我独尊
- イ 色即是空、空即是色
- ウ 南無妙法蓮華経
- エ 阿耨多羅三藐三菩提

問15 次のア～エの傍線部の「イギ」のうち、二重傍線部⑦「イギ」と同じ漢字で書き表されるものはどれか。一つ選び、記号で

答えなさい。(2点)

- ア あの人はいつも自信なさげで、社長らしいイギがない。
- イ つまらない伝統を守り続けることには、たいしたイギはない。
- ウ このことばの意味は一つだけで、ほかにイギはない。
- エ この提案には大賛成ではないが、別にイギもない。

【問題Ⅱ】(20点)

漢語の意味に注意して、あとの問いに答えなさい。

問1 傍線部の一字を正しい漢字に改めなさい。(各2点)

〔解答例〕吟行には才時記が欠かせない。 才↓歳

- ①年小の友人はなかなか得がたいものだ。
- ②封書の宛名のわきに新展と記されていた。
- ③いつも同じ失敗ばかりで、自己嫌汚に陥る。
- ④自作に対する批評を虚心胆懐に受けとめるのは難しい。
- ⑤善玉が栄え、悪玉が滅びるといふ道德観を勸善懲惡という。

問2 次の歴史書を成立の早い順に並べ直し、記号で答えなさい。(完答6点)

- ア 『史記』
- イ 『十八史略』
- ウ 『漢書』かんしよ
- エ 『資治通鑑』しじつがん
- オ 『春秋』
- カ 『日本外史』

問3 次の語と関係の深いものの組み合わせとして、正しくないものを次のア～キから二つ選び、記号で答えなさい。(各2点)

ア 一字千金 — 呂不韋

イ 二十四孝 — 舜、曾子、閔子騫、子路など

ウ 孟母三遷 — 孟子の母が、孟子の教育のために住居を何度も移したという故事

エ 四面楚歌 — 関羽

オ 五経 — 『易経』、『書経』、『詩経』、『礼記』、『春秋』

カ 六花(六つの花) — 霰

キ 戦国の七雄 — 秦、燕、斉、楚、韓、魏、趙の七国

【問題Ⅳ】(15点)

漢字の形・音・義について、あとの問いに答えなさい。

問1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈のむ〉という意味の「呑^{ドク}」という字は、現代日本では「天^{ヨウ}」と「口」とを構成要素とした形で書かれることがあるが、古の漢字字典『A』(漢・許慎、一〇〇年)では、「从口」B「声」(字の意味や領域を表すのが「口」であり、発音を表すのが「B」である)と説明される「C」文字である。このような観点からは、「天」に「口」と書くのは誤りであるといえる。

(1) 「A」に入る書名を漢字四文字で答えなさい。(3点)

(2) 「B」に入る字を漢字一文字で答えなさい。(3点)

(3) 「C」に入る語句を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

ア 象形 イ 指事 ウ 会意 エ 形声 オ 転注 カ 仮借

問2 〈入り混じって区別がはっきりしないさま〉を表す「混沌」という言葉は、「渾沌」や「渾敦」とも表記される。このように、

字面^{じづら}が語義にかかわらないとされる言葉で、二文字で構成されるものを連綿語という。次に挙げる語の中から、一般に連綿語と

みなされないものを一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

ア 簡単 イ 徘徊 ウ 猶予 エ 齷齪 オ 磊落 カ 倉卒

問3 日本漢字音には、大きく三系統（呉音・漢音・唐音）がある。これは、伝来元である中国において、時代と地域によって異なる発音であったことによる。次の選択肢の中で、漢音であるものを一つ選び、記号で答えなさい。（3点）

ア 男 ナン イ 万 マン ウ 強 キョウ エ 日 ニチ オ 女 ニョ カ 色 シキ

【問題V】（6点）

諸橋轍次の生涯や業績について、あとの問いに答えなさい。

問1 諸橋轍次は「学窓の思い出」という文章の中で自分が勉強を始めたころのことについて、次のように述べている。空欄に入る漢字一字を書きなさい。

「こどもの時分の最初の記憶は、私が五歳のときに父から『（ ）字経』を習ったこととあります。（ ）字経。人の初め。性は本善。性は相近し。習は相遠し。……………」（3点）

問2 諸橋轍次は、大正十年（一九二一）中国留学から帰国すると、留学を支援してくれた岩崎小弥太（三菱第四代社長）から、岩崎の父弥之助が創設し自らも拡充に努めた図書館の文庫長に委嘱されます。以来諸橋が三十五年間文庫長を務め、現在も多くの研究者が利用している古典籍（漢籍・和書）の収蔵で著名な図書館の名を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（3点）

ア 足利文庫 イ 静嘉堂文庫 ウ 金沢文庫